

聖霊降臨節第 17 主日礼拝説教要旨(9 月 13 日)

『力強い御手の下で』 早川 真牧師

ペトロの手紙一 5:5-11

ここでペトロは、兄弟姉妹は皆同じ苦難を受けていると言っています。それは当時のクリスチャンであるゆえに受ける迫害の苦しみです。迫害の報せを聞く時に、それは獅子が吠えたけるように、信仰者の心を騒がせます。しかしその背後には悪魔がいて、信仰者が孤立することを狙っている。だから、信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさいと言われてしています。

私たちは今しか見えないので、苦しみを忍耐することが難しいものだが、今がどれほど惨めな状況にある人をも、時が来れば永遠の栄光に与らせてくださる、だからこそ互いに祈り合い、励まし合ってこのしばらくの時を忍耐するようにとペトロは励ましています。

私たちは、力がないと嘆くものではないでしょうか。しかし力は主のものであります。私たちに求められているのは、この力強い神の御手のもとで、自らを低くし、神の御手に委ねることです。

悪魔は高ぶる者であり、私たちをも高ぶらせようとしてきます。しかしそのような時、私たちはいつもイエス・キリストの生涯に立ち帰る必要があります。キリストはどのように歩まれたでしょうか。神でありながら人となられ、へりくだって神と人ともに仕えてくださいました。そして神はその力強い御手によってキリストを死者の中から復活させ、天に引き上げてくださいました。そのキリストの姿を見続けていく必要があります。

どれほど力あるものが迫害の手を伸ばしてきたとしても、更に力ある方の御手があなた方を守っている。そして時が来れば必ず高く引き上げてくださる。だから安心していなさい。そのように今朝の箇所は私たちに告げています。